

市指定文化財（無形民俗）

は さ ま ちょうおおみやじん じゃ かぐら

飯山満町大宮神社の神楽

平成 7（1995）年 6 月 26 日 指定

伝承者 おおみやじん じゃ かぐら がくじん
大宮神社神楽楽人

City-Designated Cultural Property (Intangible Folk)

Designated Date: June 26, 1995

Successors: The Omiya Jinja Shrine Band

Kagura of Omiya Jinja Shrine in Hasamacho

Kagura of Omiya Jinja Shrine is considered to be brought from Hongo, Yatsu (Narashino City).

Its origin is not clear, however, writings 'the 3rd year of Bunkyu (1863)' and 'the 6th year of Ansei (1859)' were found on the box of kagura costumes so it is believed that kagura has been performed since the end of the Edo period.

Kagura, a sacred music and dancing is usually performed at a stage inside the precincts on the evening of the 7th of January and on the evening of October 23rd (the day of an annual festival). It has been handed down by the Omiya Jinja Shrine band, including parishioners of this shrine.

Following twelve dances are performed at present: (1) Miko Mai, (2) Tengu (Sarutahiko), (3) Hachiman Taro (Chinori), (4) Usume, (5) Kokaji (Sumiyoshi Mai), (6) Okina, (7) Sinmei (Tanemaki), (8) Kitsune (Tenku), (9) Jingu kogo (Empress Jingu), (10) Hyottoko, (11) Ibisu sama (Hiruko), (12) Oni/ Shoki (Sanjin).

The Omiya Jinja is the only shrine which offers 'Jingu kogo' (Empress Jingu) program in the city. The band consists of five musicians: a big hand drum (byouchidaiko), a drum for base rhythm (shimedaiko) and three flute players.

A community has been formed since old times in Hasama. It used to be a prosperous agricultural area so people have performed kagura to appreciate abundant crop and to pray for a bumper crop. Local people have passed down this distinctive kagura adding their originality to it. Funabashi Board of Education

大宮神社の神楽は、^{やつ ほんごう ならしの し}谷津の本郷（習志野市谷津）から^{つた}伝わったといわれている。神楽の始められた年代は、^{ほぞん}はっきりわからないが、^{しょうぞく}保存されている古い装束や箱には「^{ぶんきゅう みずのとい}文久三癸亥年(1863)」や「^{あん せい つちのとひつじ}安政六己未年(1859)」の^{すみが}墨書きがされていることから江戸時代末期にはすでに^{えん}演じられていたようである。

神楽は1月7日の^{ななくさ}七草（夜）、10月23日の^{れいさい}例祭（夜）に境内の^{けいだい かぐらでん}神楽殿で演じられる。神楽を伝えているのは、^{うじこ}氏子からなる大宮神社神楽楽人の^{ひとたち}人達である。

現在演じられている曲目は次の12座である。

- ①^{てんぐ さるとひこ}みこ舞、②^{はちまんたろう ちのり}天狗（猿田彦）、③^{おきな しんめ たねま}八幡太郎（知之利）、④^{おきな しんめ たねま}うすめ、⑤^{おきな しんめ たねま}こかじ（住吉舞）、⑥^{おきな しんめ たねま}翁、⑦^{おきな しんめ たねま}神明（種蒔き）、⑧^{おきな しんめ たねま}きつね（天狐）、⑨^{おきな しんめ たねま}神功皇后、⑩^{おきな しんめ たねま}ひよっとこ、⑪^{おきな しんめ たねま}いびす様（蛭子）、⑫^{おきな しんめ たねま}鬼・鐘馗（山神）

このうち、^{がつき えんそうしゃ}神功皇后は市内では大宮神社だけで演じられている曲目である。使用する^{おおだいこ びょううちだいこ}楽器と演奏者の人数は、大太鼓（^{こだいこ しめだいこ}鉦打太鼓）1人、小太鼓（^{こだいこ しめだいこ}締太鼓）1人、^{せいりつ}笛3人である。

古くから村が^{せいりつ}成立していたといわれ、^{さか}農業が盛んであった飯山満の地において、^{ごこくほうじょう}五穀豊穰を^{ねが}願ひ^{ほうさく}豊作に^{かんしゃ}感謝し、^{どくじ}独自の^{くふう}工夫を加え、^{とくしょく}伝えてきた特色ある神楽である。

平成29年3月 船橋市教育委員会

